

自ら運動に親しむ児童を育てる協働学習 ～体づくり運動における場の工夫や課題解決の場面を通して～

糸満市立米須小学校教諭 野原友和

I テーマ設定の理由

新小学校学習指導要領解説（体育編）の体育科の目標に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」とあり、それを達成するための具体的目標の一つに、「運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う」とある。

「運動に親しむ」とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わうとともに、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、仲間の考えや取組を認める、安全に留意するなどの態度を育むことを示している。

体育ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（平成 28 年 8 月）「1 現行学習指導要領の成果と課題」の中で、現行学習指導要領体育科の課題として、習得した知識及び技能を活用して課題解決すること、学習したことを相手に分かりやすく伝えること、運動する児童とそうでない児童の二極化傾向が見られること等が挙げられた。

これらの課題を解決し、運動に親しむための資質や能力を育てるためには、それぞれの運動の特性に応じた運動の行い方を仲間と協力して考えたり、工夫したりすることが大切である。そうすることで、児童一人一人が運動の楽しさや喜びを味わうことができ、自ら運動に親しむ児童を育てることができる。

これまでの実践を振り返ると、技能の習得や運動量の確保に重点をおいた指導を行ってきたため、運動の意義や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜びを味わわせ、児童自ら考えたり工夫したりする力の育成が十分ではなかった。また、グループ活動においては、運動が得意な児童の意見が優先され、全ての児童が楽しく、安心して運動に取り組んだり、主体的に運動に親しむための手立てや運動の課題を解決するための手立てが十分ではなかった。

そこで、本研究では、「体づくり運動」で、次の 2 点において指導の工夫を行い、上記の課題解決に取り組みたい。一つ目に、「体ほぐし運動」を通して、基本の動きを習得させ、ペア学習やグループ学習を取り入れた「場の工夫」を行い、友達や仲間と豊かに交流することをねらいとして、体を動かす心地よさや喜びを体感させる。自分の体の状態に気づくだけでなく、友達やグループの仲間の様子にも目を向けられるように学習カードを活用し、自分たちでテーマを決めて運動を選ぶことができるようにしていく。二つ目に、「体力を高める運動」を通して、「課題解決の場面」を設定する。共通の課題を解決するために、仲間と協働して関わり合いながら、基本の動きを活用した運動の行い方や用具の使い方を工夫させ、「運動の場づくり」を行う。さらに、お互いの活動を見合う場を設定することで、新たな気付きを促し、友達や仲間と豊かに交流する楽しさや仲間と協働して創り上げていく喜びを味わわせる。

以上のことから、体づくり運動において、場の工夫や課題解決の場面を取り入れることで、自ら運動に親しむ児童を育てることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

「体づくり運動」において、場の工夫や課題解決の場面を取り入れた授業を展開することで、仲間と協働して関わり合い、自ら運動に親しむ児童を育てることができるであろう。

2 検証計画

事前調査やアンケート結果等から、児童の実態について把握・分析を行う。その後、「場の工夫」や「課題解決の場面」を取り入れた授業展開の検証授業を9時間行う。授業後は、ワークシートに自己評価や感想を記入させ、「自ら運動に親しむ児童」が育まれたかどうかを考察する。また、検証授業終了後に事後調査を実施し、事前調査との比較・分析を行い、本研究の有効性を検証していく。

検証授業の対象：米須小学校 5年1組〔男子16名 女子14名 計30名〕		主な検証方法																						
1 事前調査	○体育に関する事前アンケート実施（11月） ○体力に関するアンケートの実施（12月）	・事前アンケートの分析																						
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・第1時(1/11)</td> <td>「運動に親しむ」</td> </tr> <tr> <td>・第2時(1/12)</td> <td>・約束を守り、自己の役割を果たしながら、仲間と助け合っ て運動をすることができたか。</td> </tr> <tr> <td>・第3時(1/15)</td> <td>・他者との交流を通して、自分 の考えを深めたり、仲間の考 えを認めたりすることができ たか。</td> </tr> <tr> <td>・第4時(1/16)</td> <td>「協働的な学び」</td> </tr> <tr> <td>・第5時(1/18)</td> <td>・自分や仲間の体力にあった運 動の行い方を選び、対話を通 して課題解決ができたか。</td> </tr> <tr> <td>・第6時(1/19)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・第7時(1/23)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・第8時(1/24)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※本検証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・第9時(1/25)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	・第1時(1/11)	「運動に親しむ」	・第2時(1/12)	・約束を守り、自己の役割を果たしながら、仲間と助け合っ て運動をすることができたか。	・第3時(1/15)	・他者との交流を通して、自分 の考えを深めたり、仲間の考 えを認めたりすることができ たか。	・第4時(1/16)	「協働的な学び」	・第5時(1/18)	・自分や仲間の体力にあった運 動の行い方を選び、対話を通 して課題解決ができたか。	・第6時(1/19)		・第7時(1/23)		・第8時(1/24)		※本検証		・第9時(1/25)		<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 (思考・判断) ・児童の発言や発表 ・ワークシート (自己、他者評価) ・授業記録 (写真、ビデオ等) ・学習カードの活用 (関心・意欲・態度) (思考・判断)
日程	検証の観点																							
・第1時(1/11)	「運動に親しむ」																							
・第2時(1/12)	・約束を守り、自己の役割を果たしながら、仲間と助け合っ て運動をすることができたか。																							
・第3時(1/15)	・他者との交流を通して、自分 の考えを深めたり、仲間の考 えを認めたりすることができ たか。																							
・第4時(1/16)	「協働的な学び」																							
・第5時(1/18)	・自分や仲間の体力にあった運 動の行い方を選び、対話を通 して課題解決ができたか。																							
・第6時(1/19)																								
・第7時(1/23)																								
・第8時(1/24)																								
※本検証																								
・第9時(1/25)																								
3 事後調査	○振り返りシート（1月） ○事後アンケート（2月）	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートの分析 ・振り返りシートの分析 ・授業記録、児童の感想等 の分析 																						
4 まとめ	○「場の工夫や課題解決」の学習指導の工夫を図ることは、児童が自ら仲間と協働的に関わり、「自ら運動に親しむ児童」を育むことに繋がったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後のアンケートの比較 分析・結果のまとめ ・考察 																						

Ⅲ 研究内容

1 自ら運動に親しむ児童を育てる協働学習について

(1) 「自ら運動に親しむ」とは

新小学校学習指導要領解説体育編（以後、本文では「体育編」という）に、「運動に親しむための資質や能力を育てるためには、児童の能力・適性、興味・関心等に応じて、楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習が重要である」と示されていることから、児童一人一人の課題や実態をしっかりと把握した上で運動の楽しさや喜びを味わわせる体育の学習指導を工夫していかなければならないと考える。また、授業において、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力を身に付けることで、主体的に運動に親しんでいく児童を育てることができると思う。つまり、運動に親しむ児童とは、「体育の特性や魅力を理解している」「決まりを守り、誰とでも仲良く運動をしている」「仲間の考えを認め、協働的に関わろうとしている」「自分の役割を知り、進んで活動している」「安全に留意して活動している」等、自ら進んで運動に取り組んでいる児童のことである。

(2) 協働学習とは

「協働学習」は、聴き合う関係の中で成り立ち、一人一人違った考えを持っていたり、学力差があったりする中で、自分の考えを主体的に出し合い、課題を解決していく学習である。「グローバル化が進んでいる時代で、多様な価値観、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とともに、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない」（文部科学省、2011）と記されている。また、「体育編」の授業改善の視点に、「運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりし、課題の解決を目指して、協働的な学習に取り組むなどの対話的な学びを促すこと」とある。表1は「協働学習」の効果を、4点にまとめたものである（東海林 2014）。本研究では、表1を参考にペア学習やグループ学習で相互に協力し合いながら、仲間と課題を解決する協働学習を取り入れる。学習過程の中で、ペアやグループでの活動の場や意見交換をする場を設定し、仲間、教師、用具などと豊かに関わり合いながら運動を楽しむ環境づくりを行う。

表1 「協働学習」の効果（東海林）

	「協働学習」の効果	本研究における協働学習
1	みんなで目的を達成させる満足感、充実感を味わい、主体的に取り組む意欲を持つことができる。	「体ほぐし運動」 ・ペア、グループ、一斉学習
2	幅広い知識の習得と思考の深化を行うことができる。	「体力を高める運動」 ・学習資料の活用
3	自分と友達の考えを擦り合わせながら、互いを理解し合うコミュニケーション能力を身に付けることができる。	「体力を高める運動」 ・「運動の場」を創り上げる
4	友達や自分の成長を感じながら、自分自身を見つめることができる。	「体づくり運動」全単元 ・ふり返り活動、発表等

2 体づくり運動における場の工夫と課題解決の場面について

(1) 「体づくり運動」とは

高学年の「体づくり運動」は、「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」で構成されている。『「体ほぐし運動」は、心と体を一体として捉える観点から、手軽な運動や律動的な運動を行い、体を動かす楽しみや心地よさを味わうことによって、自分や仲間の体や心の状態に気付き、体の調子を整え、仲間と豊かに交流できる』と示されている。本研究では、仲間との交流を深めるため、体ほぐし運動の中で、グループでダンスを考えさせ、授業後半の導入で取り入れる。自分たちの好きな曲でオリジナルのダンスを考えることで、協働して関わり合い、仲間と豊かに交流することができる。さらに、「体ほぐし運動」は、運動経験の有無が影響することなく誰もが楽しめるので、運動の得手不得手を越えて、仲間と運動を楽しんだり、協力して運動課題を達成することができる。と考える。

また、「体力を高める運動」は、児童生徒の体力の向上をねらいとして行われる運動で、「体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動」「力強い動きを高める運動及び動きを持続する能力を高めるための運動」で構成される（表2）。高学年児童の発達の段階では「巧みさを高めるための動き作り及び体の柔らかさを高めることに重点を置いた指導が望ましい」とされている。

「体育編」によると、高学年の学習指導では、低・中学年の「多様な動きをつくる運動（遊び）」において育まれた体の基本的な動きを基に、各種の動きを更に高めることにより体力の向上を目指すものとし、児童一人一人が運動の楽しさを味わいながら、自己の体力に応じた課題をもち、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動を行うとしている。そこで、本研究においては、単元の前半で、シンプルな運動（基本の動き）を提示し、運動や体を動かすこと自体の楽しさを味わわせ、学習の行い方を理解出来るようにする。単元の中盤では自分のめあてに合った運動を選んで、正しく運動に取り組む活動を行う。体の柔らかさ、

巧みな動き、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動を正しく理解し、児童が課題を設定し、追求していく課題解決の場面を取り入れることで、自ら進んで学習できると考える。

さらに、単元の後半では、自分の力に合った運動を行うために、これまでの運動を工夫する。同じ課題を解決していく過程の中で、仲間と協働して自己の体力を高め、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら運動に親しむ児童を育てられると考える。

表2 「発達の段階のまとめ」と「領域及び内容の系統」

	各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期
学年	小1・小2	小3・小4	小5・小6
領域	体づくり運動（遊び）		
内容	体ほぐしの運動遊び	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動
ア	「心と体の変化に気付く」「体の調子を整える」 「みんなで関わり合う」		「心と体の関係に気付く」 「関わり合うこと」
内容	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	体力を高める運動
イ	・体のバランスをとる運動遊び ・体を移動する運動遊び ・用具を操作する運動遊び ・力試しの運動遊び	・体のバランスをとる運動 ・体を移動する運動 ・用具を操作する運動 ・力試しの運動 ・基本的な動きを組み合わせる運動	・体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動 ・力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動

(2) 「場の工夫」について

「体育編」では、体育科改訂の趣旨及び要点の中で、「全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する」とある。児童の発達段階や個性、運動能力によって、運動に対する楽しさや感じ取り方は多様であり、特に、運動能力の低い児童においては、手立てや支援が不十分な指導により、楽しさを十分に味わうことができないままに学習が進んでいくことがある。そこで運動に進んでチャレンジしていこうとする学習環境を整え、様々な面からアプローチし、「場の工夫」を行うことが大切であると考えられる。

表3は、福岡県飯塚市立若菜小学校が行っている「5つの側面からみた場の工夫」である。本研究では、表3を参考に場の工夫を行う。第1時では、「試しの運動」で児童の体力を把握するために、運動する場所やスペースを4つの「場」に区切り、用具の種類や数も多数準備する（表3①②）。第2・3時では、「体ほぐし運動」で仲間との交流を深めるために学習形態を工夫し、ペアやグループ学習、一斉学習にして協働して運動を行い、運動するイメージを明確にするために学習資料を活用する（表3③④）。第5・6時では、自分の体力に応じた場を選んで取り組むため、②③④の「場の工夫」を行う。さらに、第7・8・9時では、自分達で「運動する場」を考えるため、①から⑤の5つの側面全体の「場の工夫」を行う。このように、単元全体を通して、若菜小学校の「5つの側面からみた場の工夫」を参考に授業を組み立てる。

表3 5つの側面からみた場の工夫（飯塚市立 若菜小学校）

①空間的側面からの工夫	・・・運動する場所やスペースの広がり
②物的側面からの工夫	・・・器具・用具の種類や数、及び配置の仕方
③人的側面からの工夫	・・・学習形態（個・ペア・グループ・一斉等）
④イメージ的側面からの工夫	・・・運動するイメージを明確にする学習資料や運動を方向付けるお話やルール
⑤時間的側面からの工夫	・・・活動時間の確保や活動場面の設定

(3) 体育科における課題解決とは

「体育編」によると、体育科の目標 (2) に、「運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養う」とある。「運動や健康についての自己の課題を見付け」とは、各領域の特性を踏まえ、動きや技のポイントを見付けたり、自己の行い方についての課題を見付けたりすることであるとしている。また、「その解決に向けて思考し判断する」とは、自己の課題に応じて、運動の行い方や練習の仕方などを選んだり、応用したりすることを示している。

本研究では、単元全体を通して「課題解決の場面」を取り入れ、「体づくり運動」において自己の課題や仲間の課題を協働して解決することで、自ら運動する児童の育成に努める (表 4)。

表 4 「体づくり運動」における課題解決の場面設定

第 1 時	・・・「試しの運動」で自分の体力を知る (課題設定)。
第 4 時	・・・体力を高めるための基本の運動に取り組み、運動の仕方を学ぶ。
第 5・6 時	・・・自分の体力の課題から、自分に合った運動を選んで行う。
第 7・8 時	・・・課題が同じ仲間と協働して運動の行い方を話し合い、体力を高めるための運動の場を考える。さらに、互いに見合っただアドバイスをすることで課題を解決し、よりよい運動の「場」を創っていく。
第 9 時	・・・「確かめの運動」で、自分達で運動するオリジナルの「場」を考え、楽しく体力を高める。

(* 第 2・3 時は体ほぐし運動で、課題解決の場面の設定は無い)

IV 検証授業

1 単元名 「体づくり運動」 (体力を高める運動)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容「ア 体ほぐし運動」と「イ 多様な動きをつくる運動 (遊び)、体力を高める運動」で構成されており、その内容に、「(1) 運動」「(2) 態度」「(3) 思考・判断」が示されている。体づくり運動は、自他の心と体に向き合っ、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる領域である。

① 一般的特性

体づくり運動は、身体の働きを高めたり、健康の保持増進をねらいに行われる運動である。いつでも、だれでも、どこでも手軽に行え、あまりルールに制約されず、ねらいに応じた運動を選ぶことができる運動である。また、ねらいに応じて運動を変化させ、活用することができ、個人の体力や技能に応じ、いろいろな動きをつくり出したり組み合わせたりすることができる。さらに、個人やグループのねらいに応じた運動を計画的に作ったり、練習したりすることができる運動でもある。

② 児童の立場から見た運動の特性

5 年生は、自分の体への関心や問題意識がかなり強くなり、体の働きを高めたり強めたりする運動の必要性についても理解できるようになる。しかしながら、体力を高める運動に対する切実な必要感はずしも高いとはいえないので、日常生活に結びつけながら、必要感を高め、体力の高め方の学習に強い関心や意欲をもたせるように指導していくことが大切である。

(2) 指導観

本単元では、まず始めに「体ほぐし運動」を重点的に取り組み、後半に進むにつれ、「体力を高める運動」に重点を絞り、日常生活での運動実践にむけて取り組ませる。「体ほぐし運動」については、心と体の関係に気付く「体の調子を整える」「仲間と交流する」というねらいに応じた実践を行う。

また、「体力を高める運動」においても、授業の導入時に体ほぐし運動（創作ダンス）を取り入れる。それにより、仲間意識が高まり、仲間と協力して、その後の活動がスムーズに行えると考えられる。さらに、「体力を高める運動」では、「体の柔らかさ」「巧みな動き」「力強い動き」「動きを持続する力」の4つの能力を高めることをねらいとする。第1時の「試しの運動」で児童の体力の課題発見を行い、全単元を通して、見通しを持って課題を解決できるようにする。指導の工夫として、学習資料の掲示方法の工夫、ワークシートの活用やICT活用、アドバイスカードを活用することで子ども達が意欲的に活動できるような「場の工夫」を学習展開に取り入れる。「体力を高める運動」の後半では、自分の課題となる体力を高める運動の「場」を選んだり、仲間と協働して、体力を高めるための「場」を考え、楽しく体力を高めていけるような学習環境づくりを行う。「場の工夫」や「課題解決の場面」で、仲間との交流を通して、楽しく体力の向上を図り、互いに認め合い、高め合う場として取り組ませ、児童に自ら運動に親しむ能力を育成したい。

3 単元の指導目標

(1) 単元の目標

- ① 運動に進んで取り組み、助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【態度】
 - ア 体ほぐし運動や体力を高める運動に進んで取り組むこと。
 - イ 約束を守り、仲間と助け合って運動すること。
 - ウ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たすこと。
 - エ 場の危険物を取り除いたり、用具の安全に気を配ったりすること。
- ② 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫できるようにする。【思考・判断】
 - ア 体ほぐし運動には、気付き・調整・交流のねらいがあることを知り、ねらいに応じた運動を選ぶこと。
 - イ 体力を高める運動のねらいや行い方を知り、自己の体力に応じた運動を選ぶこと。

(2) 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単 元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、自分の体力を高めたりすることができるよう、体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り、仲間と助け合って運動しようとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動のねらいを知るとともに、ねらいに応じた運動の行い方を選んでいる。 ・体力を高める運動のねらいや行い方を知るとともに、自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動では、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動のねらいに合った動きができる。

(3) 指導と評価の計画 単元の指導・評価計画 (全9時間)

時数	第6時	第7時	第8時(本時)	第9時
0	準備・整列・号令 (体ほぐし) グループで 考えたダンス 1 学習課題の確認	準備・整列・号令 (体ほぐし) グループで 考えたダンス 1 学習課題の確認	準備・整列・号令 (体ほぐし) グループで 考えたダンス 1 学習課題の確認	準備・整列・号令 1 今まで学習した内容を ふり返り、4つの体力の 高め方を確かめる。
10	「体のやわらかさを高 める運動」や「巧みな 動きを高める運動」に 取り組み、動きを高め よう 課題解決の場面 ○自分の体力に合った場 面を選んで取り組む。 ○基になる動きを自分た ちで工夫する。 2 「体のやわらかさを 高める運動」 例1) 2人組でカオルを 使って 例2) 人間知恵の輪 3 「巧みな動きを高 める運動」 例1) 平均台歩き 例2) ボールキャッチ	【めあて】 「楽しく体力を高め るための運動」をグル ープで考えよう 2 「力強い動きを高 める運動」と「巧み な動きを高める運動」 の行い方を各グル ープで考える。 課題解決の場面 3 自分たちで考えた「 体力を高めるための運 動」を行ってみる。 4 グループで考えた「 体力を高める運動」を 他のグループに紹介 する。 5 アドバイスを受けた 後、グループで話し合 い、再度、運動を行う。	自分たちで考えた運動 の場で、「確かめの運 動」を行い、体の動き が高まったかを確かめ よう 2 「確かめの運動」体験を 行う。 課題解決の場面 *場づくりの工夫を児童が 行う。 ・体の柔らかさを高める運 動 ・巧みな動きを高める運動 ・力強い動きを高める運動 ・動きを持続する能力を高 める運動 (4つの動きを高めるた めの運動を取り入れる場 を設定する)	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操
40	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操
45	場の工夫②～④	場の工夫①～⑤	場の工夫①～⑤	場の工夫①～⑤
場の工夫①～⑤	場の工夫②～④	場の工夫①～⑤	場の工夫①～⑤	場の工夫①～⑤
評価・意 見・態 度の 思考 判断 技能	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表

*場の工夫①～⑤は、研究理論の表3「5つの側面からみた場の工夫」を参照

(3) 単元の指導・評価計画 (全9時間)

時数	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	
0	準備・整列・号令 オリエンテーション 1 これから学習す る「体ほぐしの運 動」と「体力を高 める運動」の紹介 を行い、自分の体力 を知ろう 2 ペアで「試しの 運動」体験を行う。 ・体の柔らかさを高 める運動 ・力強い動きを高 める運動 ・巧みな動きを高 める運動 ・動きを持続する能 力高める運動 (4つの動きを高め るための運動を取 り入れる場を設定 する)	準備・整列・号令 オリエンテーション 1 学習課題の確認 色々な「体ほぐしの運動」を知ろう 2 新しい「体ほぐ しの運動」を、変 化をつけてやっ てみる。 例) グループで動き を考えながらダン スを踊る ・ゆったりと静的な 運動 例) ペアでストレッチ チャレンジ ・気持ちを合わせて 活動的な運動 例) ヒューマンチェ ア 3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	準備・整列・号令 オリエンテーション 1 学習課題の確認 色々な「体ほぐしの運動」を知ろう 2 色々な「体ほぐ しの運動」から選 んでやってみる。 3 新しい「体ほぐ しの運動」を、変 化をつけてやっ てみる。 例) グループで動き を考えながらダン スを踊る ・ゆったりと静的な 運動 例) ペアでストレッチ チャレンジ ・気持ちを合わせて 活動的な運動 例) ヒューマンチェ ア 3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	準備・整列・号令 オリエンテーション 1 「体力を高める運 動」について知る。 2 「自分の体力の特 徴」を知る。 3 運動の取り組み方 について知る。 ○基になる動きに 取り組む、動きのボ インツの見つけ方 を知る。 ・体の柔らかさを高 める運動 ・巧みな動きを高 める運動 例1) 人運び 3 「動きを持続する 能力を高める運動」 例1) ペットボトル シャトルラン	準備・整列・号令 (体ほぐし) グル ープで考えたダン ス 1 学習課題の確認 「力強い動きを高 める運動」や「動 きを持続する能力 を高める運動」に 取り組み、動きを 高めよう 課題解決の場面 ○自分の体力に 合った場面を取 り組む。 ○基になる動きを 自分たちで工夫 する。 2 「力強い動きを高 める運動」 例1) 人運び 3 「動きを持続する 能力を高める運動」 例1) ペットボトル シャトルラン	準備・整列・号令 (体ほぐし) グル ープで考えたダン ス 1 学習課題の確認 「力強い動きを高 める運動」や「動 きを持続する能力 を高める運動」に 取り組み、動きを 高めよう 課題解決の場面 ○自分の体力に 合った場面を取 り組む。 ○基になる動きを 自分たちで工夫 する。 2 「力強い動きを高 める運動」 例1) 人運び 3 「動きを持続する 能力を高める運動」 例1) ペットボトル シャトルラン
40	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	3 ふり返り活動 ・学習カードへの 記入 ・感想発表 ・片付け、整理体操	
45	場の工夫①・②	場の工夫③・④	場の工夫③・④	場の工夫①・⑤	場の工夫②～④	
場の工夫①～⑤	場の工夫①・②	場の工夫③・④	場の工夫③・④	場の工夫①・⑤	場の工夫②～④	
評価・意 見・態 度の 思考 判断 技能	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表	観察・学習カード 発表	

*場の工夫①～⑤は、研究理論の表3「5つの側面からみた場の工夫」を参照

4 本時の指導（第8時/9時間）

(1) 本時のねらい

○仲間と協働して運動を行い、互いの助言を参考にして、ねらいに沿った運動を考えることができる。

(2) 授業仮説

- ① 仲間と協働して運動の場を設定することによって、仲間の考えや取組を認め合うことができるであろう。
- ② 仲間と交流することを通して、運動の楽しさや課題を解決する喜びを味わい、自ら運動に親しむことができるであろう。

(3) 準備物

カラーコーン、ボール、フラフープ、マット、縄跳び、CDラジカセ、タオル、ペットボトル、風船、平均台、ケンステップ、ビブス、ホワイトボード、ゴムひも、廃材等

(4) 本時の展開

	学習内容・活動 ○予想される児童の反応	教師の指示◎と支援△	仮説の検証◇ 評価☆ 指導上の留意点※
導入 10分	<p>1 準備、整列、号令</p> <p>2 体ほぐし運動「リズムダンス」 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しい ○ 体が温かくなってきた ○ ノリノリな気持ちになってきた <p>3 学習内容の確認</p>	<p>△ 安全に注意し、協力して準備させる。</p> <p>△ 仲間の動きの良さに気づいたり、動かしている体の部位等を感じたりしながら楽しく運動させる。</p> <p>◎ リラックスをしてリズムに乗っているか。</p> <p>◎ 体の部位が伸びているか意識させる。</p>	<p>※ 全員で協力して安全に運動ができるように用具の準備をさせる。</p> 
展開 30分	<p>4 各グループに分かれ、巧みな動き、体のよわらかさを高めるための運動の行い方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習資料や前回の資料を参考にしよう。 ○ こんな用具を組み合わせよう。 <p>5 自分たちで考えた「体力を高めるための運動」を行い、他のグループに紹介する。 (3グループずつ行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ここはもっとこうの方が良い。 ○ 時間や空間で考えてみよう。 ○ ここをアドバイスしよう。 <p>6 他のグループからアドバイスをもらい、早めに改善できたグループは「体力を高めるための運動」を再度、行ってみる。</p>	<p>△ 「三つの間（時間・空間・仲間）+用具で動きを広げていけるように考えさせる。</p> <p>△ 既習事項をもとに、学習カードや掲示物等を活用し、グループで運動の行い方を考えさせる。</p> <p>◎ みんなで意見を出し合って考えよう。</p> <p>△ 改善するところがあれば、その都度、直していくように、声かけをする。</p> <p>△ 仲間や他のグループの考えを認める。</p> <p>◎ 良い所を褒めてみよう。</p> <p>△ 「三つの間（時間・空間・仲間）+用具で他のグループにアドバイスできるようにする。</p> <p>△ 安全に留意して運動を行う。</p>	<p>◇検証1</p> <p>話し合いの場面で、積極的に話し合いに参加し、仲間の考えや意見を認めながら、協働してアドバイスカードを仕上げるのができたか。</p> <p>※「みんなでみつけた宝」や学習資料を参考に運動の行い方を考える。</p> <p>☆ グループで話し合いながら、運動する場を設定することができる。</p> <p>【評価☆（思考・判断）】</p> <p>☆約束を守り、仲間と助け合って運動に取り組もうとしている。</p> <p>【評価☆（態度）】</p>
まとめ 5分	<p>7 ふり返り活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード記入をする。 ・個人やグループのふり返りをする。 ・ふり返りの発表 <p>8 次時の予告、号令、片付け</p>	<p>△ 自分の意見を言い、仲間や他のグループの考えを認めるのができたかをふり返らせる。</p> <p>◎ 他グループが考えた運動の行い方について、感じたことを発表しよう。</p> <p>△ 今回考えた運動の行い方が次時の授業で活かせることを伝え、児童の意欲に繋げる。</p>	<p>◇検証2</p> <p>各グループで考えた運動の場は、運動の楽しさや喜びを味わう工夫があり、その運動能力（体力）を高める課題解決の場になっていたか。</p>

(5) 本時の評価

- ・仲間と協働して運動を行い、互いの助言を参考にして、ねらいに沿った運動を考えることができたか。（観察・ワークシート・発言）

V 研究の結果と考察

1 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、児童のワークシートの記述や自己評価、授業観察に基づいて考察する。

(1) 仲間と協働して運動の場を設定することによって、仲間の考えや取組を認め合うことができたか

資料1は、「体力を高める運動」の場を思考している児童の様子である。①は、体が柔らかくなる運動の場について話し合いをしている場面である。「互いの距離が近いと、体をあまり曲げなくてもできるからもっと間を広げよう」と学習資料を活用して、アイデアを出し合い「そうだね、その方が体が柔らかくなると思うよ」と仲間の考えに共感していた。②の場面は、どの視点で運動を広げていくのかを教師がアドバイスし、児童らが「空間」の視点から運動を広げていくことを確認していた。さらに、児童らが協力して③の場づくりを行い、④のように楽しく「体の柔らかさを高める運動」を実践し、授業後も自らふり返りをする姿も見られ、進んで活動していたことが分かる。

資料2は、「巧みな動き」の場を考える児童のやり取りの様子である。Bグループでは身長差があり、運動が上手くいかない場面があったのでAグループが空間（高低）と仲間の視点からBグループにアドバイスを行う姿が見られた。A2のアドバイスで、高低差を替えることで、運動をスムーズに行える場面があった。さらに、A6のアドバイスで、男女別々で活動していたのを、男女仲良く活動できる場に変え、「仲間」の視点から、運動を広げ、高めていくことができた。つまり、仲間の課題を見付け、アドバイスを行うことで、その課題を解決することができたと言える。

このことから、仲間と協働して「運動の場」を創り上げることは、互いの考えや取組を認め合うことに効果があったと考える。

授業後の自己評価では97%の児童が「自分の意見を言い、友達の意見も素直に聞けた」という結果が得られた(図1)。

資料1、資料2、図1の結果から、運動の場を創る協働学習を通して、仲間の考えや取組を認め合うことができ、自ら運動に親しむ児童を育てることに効果があったと考える。



資料1 仲間と協働して運動の場を創る

お互いのグループを見合い、アドバイスする
【アドバイスする側(A)・アドバイスを受ける側(B)】
【教師(T)】「課題となる部分：空間・仲間の視点」

A1：できるだけ低い場所に身長の高い人が乗った方がいいよ。
 B1：ここだったらいいの？
 A2：僕は〇〇さんと〇〇さんのペアがいいと思うよ。
 A3：あつ、それと、男女混ざっていなかったよ。
 A4：さっきの運動で自分達グループが見たのは、女子同士、男子同士で活動していたよ。
 B2：うん、さっきは時間が無かったから・・・
 A5：それじゃ、いつもと一緒に変わらないよ。
 B3：うん、そうだね・・・
 A6：それなら、男子と女子で最後にペアを組んでみた方がいいと思うよ。
 T：これは、どの視点からのアドバイスですか？
 A7：「仲間」の視点です。

資料2 児童のやり取りの様子(ビデオ検証)

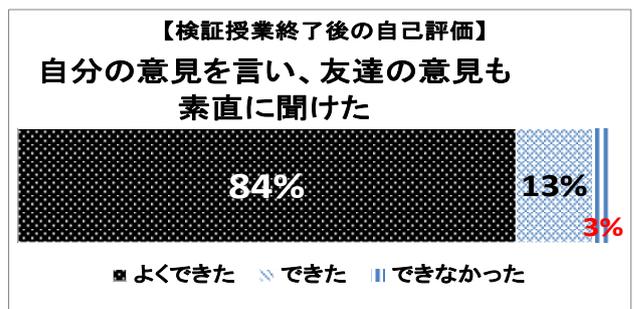


図1 検証授業後の児童の自己評価

(2) 仲間と交流することを通して、運動の楽しさや課題を解決する喜びを味わい、自ら運動に親しむことができたか

資料3の児童の感想から、仲間と交流する中で、「場の工夫」を思考したことで、毎回の授業に楽しさを感じていたことが文面から伺える。緊張の中にも、翌日の授業を楽しみにしている等、運動に対して意欲的な姿が見られるようになった事が分かった。

また、検証授業後の自己評価(図2)では、「楽しく運動することができた」の問いに対して93%の児童が「よくできた」と答えており、「仲間と助け合って課題を解決することができた」の問いに対して、90%の児童が「よくできた」と答えた。授業観察では、毎時間、仲間と交流しながら、いきいきと活動する児童の姿や、自分たちの課題に向かって話し合う姿が多く見られた。これらのことから、仲間と交流することを通して、運動の楽しさや課題を解決する喜びを味わい、自ら運動に親しむ児童の育成に繋がったと考える。

○今日の授業の感想

今日の授業はたくさんの方が来ていてダンスの時からとてもきんちょうしていましたが、グループで考えたアイデアでも楽しくできました。とても明日が楽しみです。全時間とても良かったです!!

資料3 検証授業後の児童の感想

【検証授業終了後の自己評価】

①楽しく運動することができた



②仲間と助け合って、課題を解決することができた



■よくできた ■できた ■できなかった

図2 検証授業後の児童の自己評価

2 研究仮説の検証

研究の考察は、事前(11月)・事後(2月)の体育に関するアンケート、児童のワークシートの記述や自己評価、授業観察に基づいて考察する。

(1)「場の工夫」は、仲間と協働して関わり、自ら運動に親しむ児童の育成に繋がったか

「自ら運動に親しむ児童を育てる」ための手立ての一つとして、「場の工夫」を取り入れた。「体づくり運動」全単元を通して「場の工夫」を行い、検証を行った。全単元を通して、使う用具や配置の仕方(物的側面からの工夫)を自分達で考え(資料4)、全員が自分の役割を知り、進んで活動する姿が見られた。また、資料5の児童の感想からも仲間と協働して関わり、楽しみながら工夫して「場」を創ったことが分かる。他にも「自分達で考えたので、今までで一番楽しい体育になった」や「自分達で考えた運動を行い、どれも完成度が高かった」等の感想があったことから、単元全体を通して「場の工夫」を行ったことで児童一人一人が積極的に運動に関わったことが分かった。教師が与えた場ではなく、試行錯誤しながら仲間と協働して「場」を創ったことで、仲間と交流する楽しさや協働して創り上げる喜びを感じ、自ら運動に親しむ児童の育成に繋がったと考える。



資料4 「場の工夫」(物的側面からの工夫)

○今日の授業の感想

今日は、自分達で協力して運動の場をつくりました。とてもきつた分、楽しくできました。そして、次の授業は、みんなの課題と、自分の課題にも関わってがんばりたいです

資料5 児童の感想 (場の工夫) 第5時

また、「体ほぐし運動」を通して、「場の工夫」を取り入れた授業の展開を行った。クラスの誰とでも仲良く運動することを目的に、第2・3時で「体ほぐし運動」の「気付き・調整・交流」の3つのねらいに合った運動を行った。ペア・グループ・一斉と学習形態を工夫したことで児童が仲間と豊かに関わり、協働して課題を解決する場面が多く見られた。高学年になると男女で手を繋ぐことや触れ合うことも恥ずかしがる傾向が見られるが、「体ほぐし運動」で男女の関わりを多く取り入れることで、単元の終わり頃には自然と男女の交流が見られるようになった。

仲間との関わりで「だれとでも仲良く運動できますか」の問いに対して、事前・事後アンケートでは「だれとでもできる」が40%から77%に上昇し、男女関係なく仲良く運動できる児童が増えた(図3)。「体ほぐし運動」の授業を通して、男女の交流、クラス全体の交流が見られた。また、児童の感想(資料6)では、「この授業で友達を信頼することが大事だと気づいた」とあり、他にも「今回は前回よりも仲良く楽しく交流できたと思う」「体ほぐし運動をして、いつもはあまりしゃべらない友達と交流ができて良かった」等の感想が見られた。仲間と交流し、運動の楽しさを体感したことで児童が仲間の考えや取組を認め、信頼することで、自ら運動に親しむ児童の育成に繋がったと考える。

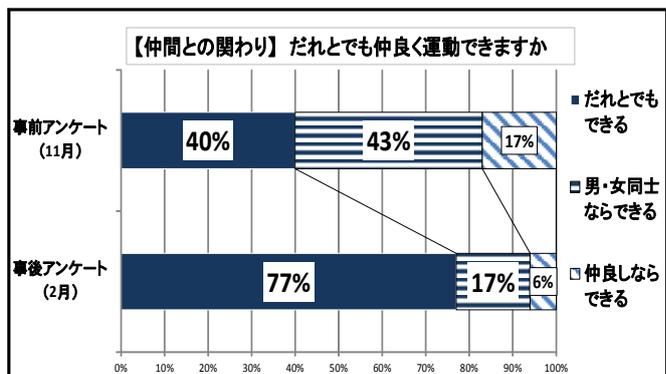


図3【仲間との関わり】事前・事後アンケート

(2)「課題解決の場面」は、仲間と協働して関わり、自ら運動に親しむ児童の育成に繋がったか

「体力を高める運動」では、第1時の「試しの運動」で自分の体力の課題を知り、次に自分の体力に応じた場を選び、グループで課題を解決する運動を行った。みんなでアイデアを出し、修正しながら、課題を解決していく場面を設定した。図4の事前・事後アンケートで、「自分の学習活動をふり返って、課題を見つけることができる」の問いに対して、「よくできる」と答えた児童が30%上昇し、課題解決の場面は効果があったと考える。

また、事前アンケートでは「できない」と答えていた児童が、事後アンケートで「できる」に変容し、「その課題を達成できるように頑張る」と感想を記述していた。課題解決の場面を多く取り入れ、ワークシートで自己をふり返ったことで、自ら進んで活動したことが分かる。さらに、仲間と協働して体力を高める場を考えたことで、「自分達で考えた運動はスペシャル感があり、楽しかった」(資料7)という感想もあり、自ら運動に親しむ児童の育成に繋がったと考える。

今日、体ほぐし運動をして、いつもはあまりしゃべらない友達と交流ができて良かったです。そして、自分でも気づいて工夫することができました。仲間との信頼関係が深まったと思います。

資料6 児童の感想 (体ほぐし運動) 第2・3時

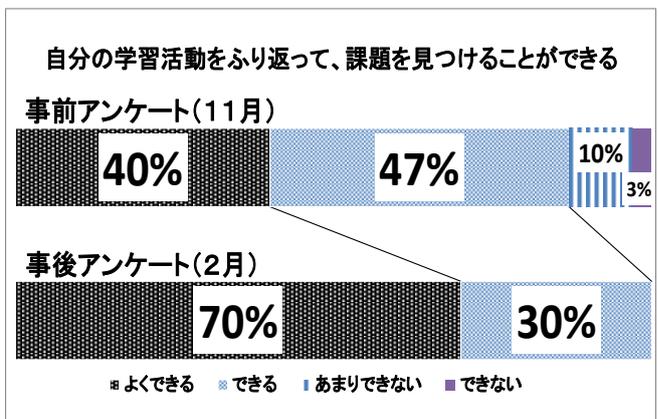


図4【課題解決の場面】事前・事後アンケート

今日の授業では、自分たちが考えた運動をしたので、スペシャル感があったとっても楽しかったです。巧みの動きの所がむずかしかったので、次やる時は今日の結果よりも良い結果を出したいです。

資料7 児童の感想 (課題解決の場面) 第6時

資料8の児童の感想から、始めはグループでの場づくりや他グループへのアドバイスに不安の方が大きかったが、授業を通して次第に自信をつけ、自分のアイデアを伝える等、主体的に活動していく児童の姿が見受けられた。他にも「自分達で場を創ると楽しいし、アドバイスを受けて直したりするので、思いやりも育ったし、成長できた」とあった。

以上の結果から、「体づくり運動」における「課題解決の場面」を取り入れた指導の工夫は、児童一人一人の学習意欲を高め、仲間と協働して関わり合い、自ら運動に親しむ児童を育むことに効果があったと考える。

全単元（9時間）の授業を終えての感想

はじめは、本当にできるのかと心配でした。でも、授業を受けてみて、自信が付き、すごく楽しくなりました。自分で考えて、運動の場をつくる授業では、自分のアイデアを、みんなに伝えることができ、そして自分の課題や、目標を見つけることができました。授業で私が課題でもあった2つの動きも少し高まったと思います。

資料8 児童の感想（全単元を終えて）

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 「体づくり運動」において「場の工夫」を取り入れたことで、自分で考え、判断し、主体的に活動する児童が増えた。
- (2) 「体ほぐし運動」を段階的に取り入れたことで、児童が仲間と協働して関わり、運動の楽しさや喜びを体感したり、仲間の考えや取組を認めたりする姿が見られるようになった。
- (3) 「体力を高める運動」において「課題解決の場面」を設け、仲間と協働して課題を解決することで、自ら運動に親しむ児童を育むことができた。

2 今後の課題

- (1) 「協働学習」の場面で、自分の考えを積極的に発言できない児童に対してのさらなる指導の工夫と全員が主体的となるような授業の改善を行う必要がある。
- (2) 「課題解決の場面」で、自分の課題を上手く見つけられない児童への支援と、自己の課題とグループの課題設定のバランスを考える必要がある。
- (3) 「体づくり運動」において、運動の特性や魅力を伝える時間や児童がアイデアを出す時間等の確保と活動時間が少なく、単元構成や授業の時間配分の工夫が必要である。

<主な参考文献>

文部科学省	『小学校学習指導要領解説 体育編』		2017年
楽しい体育の授業 (編集部) 編著	『平成29年度版 学習指導要領改訂のポイント (小・中体育)』	明治図書	2017年
白旗和也 編著	『平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開 体育編』	明治図書	2017年
鈴木直樹 編著	『子どもの未来を創造する体育の「主体的・対話的で深い学び」』	創文企画	2017年
白旗和也 編著	『小学校体育 これだけは知っておきたい「体づくり運動」の基本』	東洋館出版社	2017年
松尾哲矢 編著	『体づくり運動&トレ・ゲーム集』	ナツメ出版企画	2017年
望月明人 編著	『体づくり運動がもっと楽しくなる 小学校 コーディネーション運動』	明治図書	2015年
文部科学省 編著	学校体育実技指導資料 『体づくり運動～授業の考え方と進め方～』	東洋館出版社	2015年
池田延行 編著	『よくわかる「体づくり運動」の授業づくり』	明治図書	2013年

